

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2012-04-30

APM news 060

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第14回美術館大学 4月21日(土) pm3:00~4:30/受講者:46名

「ノー・モア・フクシマ」について

講師:U.G.サトー、福田毅、
高田清太郎、秋山孝



2012年度最初の企画展は「ノー・モア・フクシマ」である。反原発ポスター展実行委員会の協力の、開催された。「ノー・モア・フクシマ」は1945年の「ノー・モア・ヒロシマ」から付けられたものである。長岡市は刈羽原子力発電所のある刈羽村からおおよそ25キロの地にある。「ノー・モア」のあとに私たちの町の名前が入らないようにしたいというサポーターズ倶楽部会長高田清太郎氏の開催宣言から美術館大学は始まった。

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、地震、津波、原発事故という3つの不幸が重なった結果引き起こされた災害であった。秋山館長は2004年の中越地震に心を痛め、デザイナーとして何ができるかを考えたときに、まずはポスターを作り、地震の記憶を風化させないことが重要であると考え、「地震ポスター支援プロジェクト」を立ち上げた。原子力発電は、1954年に原子力研究開発予算が国会に提出されたことが契機となり、次第に加速していく。1986年にはチェルノブイリ原子力発電所事故が発生し、約350万人の反原発署名が集まるも無視される形となった。これは電力会社が広告業界を味方に付け、原子力発電の安全性をアピールしたこともひとつの要因である。日本人は徐々に原子力の存在に慣れてしまい、その結果、福島原発事故が起こったのだとした。

反原発ポスター展を立ち上げたU.G.サトー氏は、今回の反原発ポスター展は国内外から約250点のポスター作品が寄せられ、朝日新聞出版の「朝日ジャーナル〜わたしたちと原発」に掲載されたりと、徐々に反原発の訴えが理解されてきていると述べた。

また高田清太郎氏は次のように語った。原発の安全神話は、経済利益や政治的背景によって都合よく作られたものでしかない。作られた「神話」に寄りかかるのではなく、正確な情報によってわれわれ自身が判断することに意味がある。居場所をなくす悲劇は、二度と繰り返してはならないとした。

最後に秋山館長より、今回4名の講師の方々からさまざまな意見を聞くことができたが、こうした場の設定と継続こそが大切であると締めくくった。

(APM公式ホームページより抜粋)



第9回企画展「ノー・モア・フクシマ」懇親会風景